



米子市埋蔵文化財センターたより



第16号

2015年3月

陰田マノカンヤマ遺跡の調査

- ヘラ書きが出土! -

平成26年11月から平成27年1月まで行われた陰田宮の谷遺跡・陰田マノカン山遺跡の調査では、急傾斜地に古代の段状遺構などが検出されました。陰田地区では現在までに断続的に調査が行われ、特に1984年の陰田古墳群、横穴墓群の調査成果により構築された須恵器の編年は米子平野の基準資料となっています。

今回の調査では「酒甌」「夫」「吉」の三点もの刻書須恵器が出土しました。「酒甌」は甕の肩に、「夫」は須恵器の坏蓋に、「吉」は坏の高台内に焼成前のヘラ書きではっきりと記されています。「酒甌」という刻書は今までに類例がなく新発見の資料と考えられます。

「甌」には「大甕」という意味がありますが、この甕は頸部の直径が19cmとあまり大型ではないため、単なる酒を入れる目的の容器という意味なのかもしれません。

また、「吉」については、陰田遺跡群で既に3点の「吉」刻書須恵器が出土しており、島根県安来市吉佐町の石田遺跡でも出土していることから、地名や氏族名などを表している可能性が考えられます。もしかすると7世紀後半から8世紀にかけて、吉佐町から陰田町にかけての土地に「吉某」という氏族がいたのかもしれません。いずれにしても今回出土した文字資料は当時の情報を得るための貴重な考古学資料です。(濱野)



「酒甌」



「夫」



「吉」



発掘調査情報

－ 越敷山古墳群の調査 －

昨年の4月より行ってきた越敷山古墳群の発掘調査も、越敷山71・79号墳の墳丘の調査、そして80号墳の横穴式石室の解体調査へと進み、いよいよ完了の日が近づいてきました。

墳丘の調査は、墳丘の構築過程を明らかにするために行いますが、北側に位置する71号墳は、傾斜面に黒色土と地山のローム土を交互に1mほど積み上げて墳丘を造っていました。一方、南側に位置する79号墳は、ほぼ地山と同質の土を40cm程度盛っているだけで、二つの古墳の造り方の違いが明瞭にわかりました。

80号墳は、玄室内の長さ1.6m、高さ1.3mの小型の石室でしたが、羨道の床面に板石を敷き、入口に框石(かまちいし)を置く、重厚な造りでした。また、側壁の一部をL字形に加工して石を積むなど、終末期古墳に見られる手法が用いられていることが明らかとなりました。(佐伯)



左 80号墳の側壁加工状況



右 80号墳の奥壁状況

整理室たより

埋蔵文化財センターでは、これまでに発掘された土器や石器などの遺物を大量に保管しています。

貸出や研究用に要請があるため、重要遺物や報告書掲載遺物が出せるように、遺跡毎に収納コンテナに番号を付して整理を進めています。また、報告書未掲載の遺物も同様に整理しています。整理が済んだ遺物は遺跡毎に収蔵庫の棚に保管して行きます。

また重要な上淀廃寺の壁画や鉄器などの錆化する遺物は、24時間調湿調温の出来る特別収蔵庫で保管しています。(小原)



収納のための整理作業

米子市街地から東7kmの岡成集落の東の大山山麓丘陵に所在する弥生時代の集落と墳墓の遺跡です。

標高93mのなだらかな丘陵上に弥生時代後期の竪穴建物跡5棟、掘立柱建物跡11棟、土壙墓37基、方形周溝墓4基が調査されています。

集落跡は竪穴建物1棟と掘立柱建物2棟を単位とした5グループが広場を囲むように分布しており、当時の村の様子を物語っています。

また土壙墓は、墓穴の形から木棺墓と考えられます。その分布状況から10基前後のグループのまとまりが見られ、家族世帯の構成が推察されます。また土壙墓群から離れた丘陵斜面には方形の溝で区画された周溝墓が発見されており、土壙墓に埋められた人との階層差があったことを物語っています。本遺跡は、この地域の弥生時代後期の村の姿と社会構成を理解する上で貴重な遺跡です。(小原)



岡成第9遺跡全景

コラムー古墳を掘る④

終末期古墳 —石州府69号墳—

1986年に工場用地造成に伴い発掘調査された石州府古墳群では、古墳時代後期から終末期の古墳が多数発見されました。

終末期古墳とは古墳時代末から飛鳥時代の7世紀代に造られた古墳で、高松塚古墳やキトラ古墳などが代表的な終末期古墳です。

石州府古墳群の終末期古墳は直径や辺が10m前後の小規模な円墳や方墳です。群中の代表的な古墳は方墳の6号墳、69号墳と円墳の67号墳などで、石垣状の外護列石を持ち、埋葬施設は横穴式石室です。なかでも69号墳は、一辺4.6m、高さ0.4mの7世紀末の小さな方墳で、長さ1.8mのまるで石棺のような極めて小さな横穴式石室を埋葬施設としており、古墳造りの終焉を物語る姿を示しています。(小原)



石州府69号墳

センター・資料館日誌

- 1月7日 上淀白鳳の丘展示館井上学芸員が瓦調査で来館された。
- 1月9日 県史編纂室湯村氏が資料借用で来館された。
- 1月15日 むきばんだ史跡公園の陶澤氏が写場利用で来館された。
- 1月21日 県埋蔵文化財センター君嶋氏が木器調査で来館された。
- 1月23日 上淀白鳳の丘展示館井上学芸員が資料借用で来館された。
- 1月30日 文化庁内田調査官が当館の視察に来館された。
- 2月26日 出雲弥生の森博物館の高橋氏が調査指導で来館された。
- 2月27日 島根大学岩本准教授が鏡の調査で来館された。



米子城跡ガイドウォーク

- 3月8日 米子城跡ガイドウォークが開催された。
- 3月20日 (一財)米子市文化財団の評議委員会で福市考古資料館・埋蔵文化財センターの27年度事業計画説明を行った。
- 3月26日 米子市歴史館運営委員会が開催され、福市考古資料館・埋蔵文化財センターの26年度事業報告を行った。

行事案内

「尾高城跡ガイドウォーク」

戦国時代の西伯耆の要の城と呼ばれる尾高城を巡ります。中世の「土の城」の縄張りを巡ってみませんか。



尾高城跡方形館跡

日 時 平成27年5月17日(日)
午後1時30分～3時30分

集合場所 シャトー尾高梅園駐車場

定 員 30名 資料代100円

申 込 電話かFAXで受け付けします。
0859-26-0455

編集後記

年度末は別れと出会いの季節でもありますが、職員数名は異動により、当センターを離れることとなりそうです。また、発掘調査事業の縮小により整理作業員数名も減員となります。来年度は少ないスタッフで頑張っていく事となります。

発行日 平成26年 3月 25日
発行者 米子市埋蔵文化財センター
指定管理者 (一財)米子市文化財団
電話 0859-26-0455
Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp

